



■公益財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 「長崎平和の日」関連写真、長崎平和宣言
- 海外原爆展の報告（カザフスタン共和国）
- カザフスタン共和国「核兵器に反対する国際デー」記念写真展（追悼平和祈念館）
- ピースネット実施報告（ニューヨーク⇄追悼平和祈念館）
- 「アジア青年平和交流事業」認定事業が決定
- 「長崎国際平和映画フォーラム 2014」開催のお知らせ
- 「市民のつどい」開催のお知らせ
- TOPICS!（ピース・トーク9【改訂版】完成のお知らせ、市民対象碑めぐり など）



写真資料調査部会主催の長崎原爆写真展の様子 【2ページに関連記事】



田上長崎市長による「長崎平和宣言」



「死没者名簿奉安」



じょうだいまやこ 城臺美彌子さんの「平和への誓い」

69年目の夏 平和の願い 長崎から



山里小学校の児童による合唱

69年目の夏、
祈念式典会場とその周辺では、
原爆犠牲者への追悼と、核兵器の廃絶、



「献水」

そして平和な世界を願って
多くの行事が行われました。



「平和の灯」
—キャンドルライトアップ&コンサート—



「平和の祈り キッズゲルニカ in 長崎」
(秋月グラント助成事業)



「平和の灯」
—キャンドルライトアップ&コンサート—

朗読ボランティア「永遠(とわ)の会」による原爆体験記の朗読や、二胡の演奏、ピアノとキーボードによる合奏といった演目が行われ、来場者は耳を傾けていました。



追悼イベントの様子

8月9日
追悼イベント
朗読と追悼の調べへ

8月9日、追悼平和祈念館で「朗読と追悼の調べ」と題し、原爆死者を追悼するイベントを開催しました。

今回の写真展では、米国の国立公文書館で新たに発見された貴重な写真も展示され、来場者は、その一つ一つの写真に見入っていました。



写真展を見学する来場者

写真資料調査部会の長崎原爆写真展「未来への遺産」が追悼平和祈念館交流ラウンジで開催され、多くの方が来場されました。

8月1日～31日
長崎原爆写真展
「未来への遺産」

(一部の写真は長崎市広報広聴課提供)

長崎平和宣言

69年前のこの時刻、この丘から見上げる空は真っ黒な原子雲で覆われていました。米軍機から投下された一発の原子爆弾により、家々は吹き飛び、炎に包まれ、黒焦げの死体が散乱する中を多くの市民が逃げまどいました。凄まじい熱線と爆風と放射線は、7万4千人もの尊い命を奪い、7万5千人の負傷者を出し、かろうじて生き残った人々の心と体に、69年たった今も癒えることのない深い傷を刻みこみました。

今も世界には1万6千発以上の核弾頭が存在します。核兵器の恐ろしさを身をもって知る被爆者は、核兵器は二度と使われてはならない、と必死で警鐘を鳴らし続けてきました。広島、長崎の原爆以降、戦争で核兵器が使われなかったのは、被爆者の存在とその声があったからです。

もし今、核兵器が戦争で使われたら、世界はどうなるのでしょうか。

今年2月メキシコで開かれた「核兵器の非人道性に関する国際会議」では、146か国の代表が、人体や経済、環境、気候変動など、さまざまな視点から、核兵器がいかに非人道的な兵器であるかを明らかにしました。その中で、もし核戦争になれば、傷ついた人々を助けることもできず、「核の冬」の到来で食糧がなくなり、世界の20億人以上が飢餓状態に陥るという恐るべき予測が発表されました。

核兵器の恐怖は決して過去の広島、長崎だけのものではありません。まさに世界がかかえる“今と未来の問題”なのです。

こうした核兵器の非人道性に着目する国々の間で、核兵器禁止条約などの検討に向けた動きが始まっています。

しかし一方で、核兵器保有国とその傘の下にいる国々は、核兵器によって国の安全を守ろうとする考えを依然として手放そうとせず、核兵器の禁止を先送りしようとしています。

この対立を越えることができなければ、来年開かれる5年に一度の核不拡散条約（NPT）再検討会議は、なんの前進もないまま終わるかもしれません。

核兵器保有国とその傘の下にいる国々に呼びかけます。

「核兵器のない世界」の実現のために、いつまでに、何をするのかについて、核兵器の法的禁止を求めている国々と協議ができる場をまず作り、対立を越える第一歩を踏み出してください。日本政府は、核兵器の非人道性を一番理解している国として、その先頭に立ってください。

核戦争から未来を守る地域的な方法として「非核兵器地帯」があります。現在、地球の陸地の半分以上が既に非核兵器地帯に属しています。日本政府には、韓国、北朝鮮、日本が属する北東アジア地域を核兵器から守る方法の一つとして、非核三原則の法制化とともに、「北東アジア非核兵器地帯構想」の検討を始めるよう提言します。

この構想には、わが国の500人以上の自治体の首長が賛同しており、これからも賛同の輪を広げていきます。

いまわが国では、集団的自衛権の議論を機に、「平和国家」としての安全保障のあり方についてさまざまな意見が交わされています。

長崎は「ノーモア・ナガサキ」とともに、「ノーモア・ウォー」と叫び続けてきました。日本国憲法に定められた「戦争をしない」という誓いは、被爆国日本の原点であるとともに、被爆地長崎の原点でもあります。

被爆者たちが自らの体験を語ることで伝え続けてきた、その平和の原点がいま揺らいでいるのではないかと、という不安と懸念が、急ぐ議論の中で生まれています。日本政府にはこの不安と懸念の声に、真摯に向き合い、耳を傾けることを強く求めます。

長崎では、若い世代が、核兵器について自分たちで考え、議論し、新しい活動を始めています。大学生たちは海外にネットワークを広げ始めました。高校生たちが国連に届けた核兵器廃絶を求める署名の数は、すでに100万人を超えました。

その高校生たちの合言葉「ビリョクだけどもリョクじゃない」は、一人ひとりの人々の集まりである市民社会こそがもっとも大きな力の源泉だ、ということをお私たちに思い起こさせてくれます。長崎はこれからも市民社会の一員として、仲間を増やし、NGOと連携し、目標を同じくする国々や国連と力を合わせて、核兵器のない世界の実現に向けて行動し続けます。世界の皆さん、次の世代に「核兵器のない世界」を引き継ぎましょう。

東京電力福島第一原子力発電所の事故から、3年がたちました。今も多くの方々が不安な暮らしを強いられています。長崎は今後も福島の日も早い復興を願い、さまざまな支援を続けていきます。

来年は被爆からちょうど70年になります。

被爆者はますます高齢化しており、原爆症の認定制度の改善など実態に応じた援護の充実を望みます。

被爆70年までの一年が、平和への思いを共有する世界の人たちとともに目指してきた「核兵器のない世界」の実現に向けて大きく前進する一年になることを願い、原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げ、広島市とともに核兵器廃絶と恒久平和の実現に努力することをここに宣言します。

2014年（平成26年）8月9日

長崎市長 田上 富久

カザフスタンで原爆展を開催

8月6日、カザフスタン共和国で追悼平和祈念館が主催する「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」が始まりました。

今回の原爆展は首都・アスタナ市（8月6日～8月25日）、セメイ市（8月29日～9月3日）、アルマティ市（9月10日～9月19日）、9月22日～9月30日）で実施します。

アスタナ市の独立宮殿で行われた開会式には、一般の参加者に加え駐カザフスタン日本国大使や、オランダ大使、また地元メディア関係者など多くの方が訪れました。

開会式では、まず原爆死没者に対する黙祷が捧げられました。

智多追悼平和祈念館長の原爆展開催のあいさつの後、継承部会員



独立宮殿で被爆体験講話を行う
継承部会員・築城昭平氏



原爆展の様子



の築城昭平さんによる被爆体験講話が行われました。広島・長崎の被爆被害の写真などを提示しながらの講話に、聴講者は熱心に耳を傾けていました。

築城さんはアスタナ市で2回、アルマティ市で2回、計4回講話を行いました。

会場内の折鶴コーナーでは日本語を学んでいるボランティアスタッフが、鶴の折り方を来館者に教えていました。



現地のボランティアスタッフ

独立宮殿で行った原爆展の内容としては、原爆写真、原爆投下前後の長崎市写真、爆心地付近一帯のパノラマ写真、被ばく医療パネル、広島・長崎両市長あいさつパネル、被爆者証言映像、被爆体験記、被爆瓦、二

重被爆者山口彊氏遺品3点（山口氏が描いた被爆マリヤの絵・山口氏自身の写真・被爆者手帳のレプリカ）といった原爆被害の実相が分かるものが展示されました。原爆展終了後、これらの展示物は一部を除きカザフスタンへ寄贈されます。



講話後、参加した学生たちと



ユーラシア国立大学での講話の様子

駐日カザフスタン共和国大使館主催 「核実験に反対する国際デー」 記念写真展を開催しました

8月6日から31日まで、追悼平和祈念館にて駐日カザフスタン共和国大使館主催の写真展が開催されました。

カザフスタン共和国のセミバラチンスク州では、40年間にわたって、450回以上の核実験が実施されました。

1991年8月29日、同国のナザルバエフ大統領により、世界第4位の規模の核兵器を全面廃棄することが決定されました。

2009年には、国連総会において8月29日が「核実験に反対する国際デー」と採択されました。

写真展では、核実験場閉鎖に至るまでの動きを表した31点が展示されました。開催初日、同国大使館のミルザティラエフ参事官が来館し、「核実験に反対する国際デー」への賛同を呼びかけました。



記念写真展を案内する田畑祈念館副館長と
ミルザティラエフ参事官(左)



長崎被爆写真の説明を行う深堀写真資料調査部長と
ミルザティラエフ参事官(左)

世界とつながる

ピースネット

8月9日
アメリカ ニューヨークとの
ピースネット開催！

追悼平和祈念館では、遠隔地と長崎をインターネット会議システムにより接続し、被爆者が自らの体験を語り、意見を交わす「ピースネット」を実施しています。

8月9日、ニューヨークとのピースネットを実施しました。継承部会員の早崎猪之助さんが、14歳のときに三菱兵器製作所大橋工場で被爆した体験を語りました。



ニューヨークとのピースネットを行う
継承部会員・早崎猪之助氏

2件とも事業認定される！

平成26年度

アジア青年平和交流事業

9月14日に当協会主催のアジア青年平和交流事業「自分たちが考えるアジアの若者同士の国際・平和交流プログラム公開コンペティション」を追悼平和祈念館で開催しました。

公開コンペティションでは、応募のあった活水高等学校と長崎外国語大学の2グループより、それぞれ自分たちが考えた企画についてプレゼンテーションが行われ、その後、審査員が各賞の選定と協会のアジア青年平和交流事業としての事業認定について審査を行いました。

審査の結果、活水高等学校が最優秀賞、長崎外国語大学が第二位を受賞し、さらに、両企画とも意義深く、若者らしい発想の独創的な取り組みであり、活動の広がり期待したいと審査員より評価を得て、2件とも事業認定されました。今後は、協会よ

り資金提供を行い、審査員や来場者からの意見も踏まえつつ、応募者自身の手で事業を実施してもらいます。なお、長崎外国語大学は、12月14日(日)に同大学内で今回の企画にもとづくイベントを開催する予定です。皆様への参加をお待ちしています。

今年度は、2件の応募にとどまりましたが、さらに認知度アップを図り、多くの若者がチャレンジできるような事業にしていきたいと考えています。



公開コンペティションの様子

最優秀賞

活水高等学校 平和学習部ふりそでプロジェクト
企画概要：「ふりそでの少女」の作者である故松添博氏から渡されたバトンを受け継ぎ、このプロジェクトの重要性はさらに高まっている。「ふりそでの少女」の物語の多言語化(中国語、韓国語、マレー語など)を進め、かつ人的な交流を行う場を作り相互理解を深めていく。



活水高等学校 平和学習部

第二位

長崎外国語大学2014国際交流プロジェクト
企画概要：過去2年間の活動実績を引き継ぎ、「食」をテーマにした異文化交流会を実施する。

これらの活動を通じて異文化理解を深め、「コミュニケーション能力を身につけることを目標としている。また、昨年参加した南山高等学校の共同プロジェクトとして実施する。



長崎外国語大学

長崎国際平和映画フォーラム2014



～被爆70周年に向けて～



今年で5回目を迎える「長崎国際平和映画フォーラム」(主催: 追悼平和祈念館)を、11月21日(金)から24日(月)までの4日間の日程で開催します。

今回は、「被爆70周年に向けて」をテーマに、今年60周年を迎えた第五福竜丸事件(ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験による被曝)、70周年を迎えたポーランド・ワルシャワ蜂起(ナチス・ドイツに対するポーランド人の武装蜂起)に関する映画を上映します。

ここから来年の被爆70周年に向けた被爆の継承について、あらためて考えるきっかけとなることを願っています。「戦争と人間(1～3部)」「真空地帯」などの大作を含め計10作品を上映します。

原爆資料館ホールプログラム



※プログラムは変更となる場合があります

入場無料

★11/21 (金)

13:00 オープニング・セレモニー

13:20 「第五福竜丸」109分 新藤兼人監督 1959年

15:30 「放射線を浴びた[X年後]」83分 伊東 英朗監督 2012年

★11/22 (土)

10:00 「真空地帯」129分 山本薩夫監督 1952年

12:50 主催者あいさつ

13:10 朗読劇「被爆と被曝」(仮題)

(無名塾の俳優と永遠の会による朗読劇)

14:30 「ひろしま」104分 関川秀雄監督 1953年

16:40 「月光の夏」111分 神山征二郎監督 1993年



昨年の朗読劇の様子

★11/23 (日)

10:00 「地下水道」96分 アンジェイ・ワイダ監督 1956年

12:20 「地上に降りる」45分 ミハウ・ネカンダ＝トレプカ監督 2012年

13:10 ミハウ・ネカンダ＝トレプカ監督によるシンポジウム

14:10 「戦争と人間」第1部(運命の序曲)197分 山本薩夫監督 1970年

★11/24 (月)

10:00 「戦争と人間」第2部(愛と悲しみの山河)179分 山本薩夫監督 1971年

13:50 「戦争と人間」第3部(完結編)187分 山本薩夫監督 1973年

追悼平和祈念館交流ラウンジプログラム



※プログラムは変更となる場合があります

入場無料

★11/23 (日) 「NAGASAKI DAY (ナガサキ・デー)」

10:00～13:00 NBC「神と原爆」、NCC「私は原爆を伝えたかった」

NBC「静かな声」

16:00～17:00 KTN「沈黙のマリア」

※この日は、同会場で高校生朗読劇「ヒロシマ ナガサキ」

の上演(14:00～)も予定しています。

原爆資料館ホールでは映画上映以外にも、ワルシャワ蜂起に関するドキュメンタリー映画「地上に降りる」を製作した監督ミハウ・ネカンダ＝トレプカ氏（※1）を招き、ワルシャワ蜂起の事実や記憶がどのように継承されているのかについて語るシンポジウムの開催を予定しています。

さらに、無名塾の俳優（※2）お二人と祈念館朗読ボランティア「被爆体験を語り継ぐ 永遠（とわ）の会」のメンバーによる朗読劇の上演も、昨年に引き続き予定しています。

追悼平和祈念館交流ラウンジでは、平成24年から地元テレビ局との共同事業として製作してきた原爆・平和関連のドキュメンタリー番組の英語字幕版を一挙上映し、長崎在住の外国人が原爆・平和について知る機会「NAGASAKI DAY（ナガサキ・デー）」として、世界への発信につなげていくことにしています。

すべて入場無料です。多くのご来場をお待ちしています。

お問い合わせは、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館（095-814-0055）まで。

※1 ミハウ・ネカンダ＝トレプカ

1947年9月24日生まれ（67歳）
ドキュメンタリー映画監督・脚本家。
ウッジ国立映画大学映画監督学科を卒業。
80年代後半よりTVPポーランド国営テレビのドキュメント部門との共同制作に携わっており、多くのドキュメント映画やテレビ用ミュージカル製作に関わっている。

※2 ● 本郷 弦（ほんごう げん）

1972年生まれ。東京都出身。
1994年に無名塾に入塾。
舞台、映画などで活躍中。

● 樋口 泰子（ひぐち やすこ）

1976年生まれ。山梨県出身。
1999年無名塾に入塾。
舞台をはじめ、テレビでも幅広く活躍。



戦時食コーナー



原爆被爆写真展



ミニコンサート



折り鶴コーナー



エコ風船コーナー



綿菓子・ポップコーンコーナー

※全コーナー無料でお楽しみいただけます！

《戦時食コーナー》 《原爆被爆写真展》 《ミニコンサート》
《折り鶴コーナー》 《エコ風船コーナー》
《綿菓子・ポップコーンコーナー》があります。

当協会では国連軍縮週間（10月24日～30日）に合わせて恒例の「市民のつどい」を開催します。どなたでも気軽に参加できて、楽しめるイベントですので、ぜひ、ご来場ください。

とき：10月25日（土） 10時～13時
ところ：長崎原爆資料館前階段下広場

国連軍縮週間関連イベント
「市民のつどい」を開催します

▲ 昨年の「市民のつどい」の様子

ピース・トーク9【改訂版】が完成しました！

継承部会ピーストーク研修班の編集によるピース・トーク9【改訂版】が完成しました。非核宣言自治体数や、地球上の全核弾頭数、非核兵器地帯の状況などを最新のデータに更新しています。

細かい表記の見直しも行き、より読みやすく内容も充実しており、平和を学ぶために最適の一冊です。

原爆資料館内の図書販売コーナーで販売していますので、ぜひ、お買い求めください。（B5判 72ページ）

価格：税込540円（当協会会員は税込486円）



市民対象碑めぐりを開催しました！

9月21日、継承部会原爆遺跡研修班が主催する「市民対象碑めぐり」を行いました。今回は、昨年夏に国の登録記念物となった旧城山国民学校校舎、浦上天主堂旧鐘楼を中心に見学するコースで、市民ら約60人が参加しました。班員が被爆時に見た光景や、その頃の思い出などを交えながら、城山小学校平和祈念館や、普段は見る事が出来ない浦上天主堂小聖堂内の被爆マリア像などを案内しました。参加者はメモを取りながら聞き入り、「被爆者の思いと共に伝えていきたい」などの感想が寄せられました。

次回は来年春、同じく登録記念物に認定されている旧長崎医科大学門柱、山王神社二の鳥居などを見学する予定です。



碑めぐりの様子

世界の核弾頭の数

	ロシア	米 国	フランス	中 国	英 国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
2013年 11月1日	~8,500	~7,700	300	250	225	80	100~120	90~110	<10	~17,300
2014年 8月1日	~8,000	~7,310	300	250	225	80	100~120	90~110	<10	~16,400

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1, 122人
 - ◎賛助会員 145人
 - ◎学生会員 11人
- 平成26年9月9日現在

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎福田 葉子 五万円
 - ◎木下 セツ 二万五千円
 - ◎北城 裕治 一万九千円
 - ◎松本 広次 二百九十六円
 - ◎匿名 二万円
 - ◎匿名 六千円
- (敬称略)

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。今年度まだ会費を納めていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

賛助会員(法人・団体)の一覧を協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。